

抗がん剤の副作用について No. 5

末梢神経障害

はじめに

末梢神経とは、脳や脊髄から分かれた後の、体の中に分布する神経をいい、熱さ、冷たさ、痛さといった温痛覚や触覚を伝え、また、手足の位置、運動の変化、振動などを認識する働きをします。がん化学療法に伴い、これが障害されると、しびれや痛みが現れたり、痛みや熱さ、冷たさなどに対する感覚が鈍くなったりします。

末梢神経障害を起こしやすい抗がん剤

()は商品名

1 植物由来

パクリタキセル、ドセタキセル (タキソテール)、
エトポシド (ラストット)

2 植物アルカロイド

ビンレルビン (ナベルビン)、ビンクリスチン (オンコビン)
ビンブラスチン (エクザール)、ビンデシン (フィルデシン)

3 代謝拮抗剤

フルオロウラシル (5-FU)、シタラビン (キロサイド)

4 白金製剤

シスプラチン、カルボプラチン (パラプラチン)
オキサリプラチン (エルプラット)、ネダプラチン (アクプラ)

5 アルキル化剤

イホスファミド (イホマイド)、メルファラン (アルケラン)

6 抗生物質

アムルビシン (カルセド)、ピラルビシン (テラルビシン)
エピルビシン (ファルモルビシン)



パクリタキセル、タキソテールの原料
(ヨーロッパイチイ)

末梢神経障害の症状

- 1 指先に皮一枚貼った感じ
- 2 手袋・靴下をはいている感じ
- 3 足・手のぴりぴりする感じ、しびれ
- 4 筋力低下、脱力感
- 5 筋肉痛、関節痛・・・など

このような症状や徴候があつたり、不安や、気になることがあれば、すぐに医療関係者に相談してください。

ほとんどの場合、症状は、抗がん剤の中止により2週間から8週間で軽減、消失しますが、なかには中止後も長期間継続する場合があります。

末梢神経障害の薬物療法

しびれなどに対しては、有効性が明らかな薬剤はありませんが、一般的には次のような薬剤が使用されています。

しびれ症状の緩和

- | | |
|----------------|---|
| ☆ ビタミン製剤 | メコバラミン(メチコバール)、ピドキサール、
チアミン・ピリドキシン・シアノコバラミン(ビタメジン) |
| ☆ 非ステロイド性消炎鎮痛剤 | メロキシカム(モービック) |
| ☆ 漢方薬 | 牛車腎気丸 |
| ☆ 神経障害性疼痛治療薬 | プレガバリン(リリカ) |
- など.....

筋肉痛・関節痛の緩和

- | | |
|----------------|---------------------------------|
| ☆ 非ステロイド性消炎鎮痛剤 | ジクロフェナクNa、ロキソプロフェン |
| ☆ 三環系抗うつ薬 | アミトリプチリン(トリプタノール)、アモキサピン(アモキサン) |
| ☆ 漢方薬 | 芍薬甘草湯 |
- など.....

日常生活での注意点

ケガ、転倒防止	炊事用のゴム手袋を使う(感覚が一層鈍くなるときは、使わない)。 つまずきそうなものを床に放置しない。 小さなマット、滑りやすいカーペットなどは敷かない。 爪を切りそろえておく。 大きいもの、重いものを動かすときは、無理をしないで手伝ってもらう。
熱傷の防止	カイロを長時間身につけたままにしない。 ストーブのそばに長時間いない。 熱いものには触れない。
その他	手袋や靴下で保温し、末梢循環をよくする。 手指の運動を積極的に行い、末梢神経を刺激する。